

<b>研究課題名</b>	当科における静脈血栓塞栓症スクリーニングについての検討
<b>研究の意義・目的</b>	肺血栓塞栓症は妊産婦死亡の主要な原因の一つです。日本産婦人科医会の報告では、現在、妊産婦死亡報告数のうち肺血栓塞栓症は約8%を占めると言われています。肺血栓塞栓症の塞栓源の約90%は下肢、あるいは骨盤内静脈で形成された血栓とされ、致死的な肺血栓塞栓症を防ぐには深部静脈血栓症の予防と早期診断・早期治療が重要です。深部静脈血栓症のスクリーニングでは一般的にDダイマー値の測定が行われますが、妊娠中期から凝固系が亢進する妊婦のDダイマー値は深部静脈血栓症が無くても高値を示す場合が多く、スクリーニングに際しての基準値にも統一された規定はありません。『産婦人科診療ガイドライン2020』では、妊婦・産褥婦に対する深部静脈血栓症スクリーニングについて、「各施設でDダイマー値の基準値を決めておいてもよい」とされており、当院では36週から37週の後期検査にてDダイマー値を測定しています。この研究の目的は、妊婦のDダイマー値と深部静脈血栓症や肺血栓塞栓症の発症との関連やその他のリスク因子について検討し、より効果的な深部静脈血栓症スクリーニング方法について考えていくことにあります。
<b>研究を行う期間</b>	研究機関の長の研究実施許可日～2027年3月
<b>研究協力をお願いしたい方(対象者)</b>	2021年1月～2024年12月の間に当科にて分娩した方で、妊娠中にDダイマー値を測定した方が対象となります。
<b>協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目</b>	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：年齢、性別、身長、体重、経妊産数、妊娠方法、合併症、既往歴、妊娠経過、超音波検査やCT画像、MRI画像の所見、Dダイマー値等の血液検査所見、分娩方法、分娩時出血量、手術時間、輸血の有無、分娩後の追加治療、胎児の状態、出生児の体重、アプガースコア、出生児の血液所見、合併症、胎盤病理所見等。
<b>試料・情報を利用する者の範囲</b>	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行います。 (研究機関名) 大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学講座 (研究責任者) 橘 大介
<b>試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称</b>	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
<b>本研究の利益相反</b>	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力をしたくない場合</b>	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学講座 (担当者氏名) 田原 三枝 電話番号：06-6645-3862